ISC（国際学術会議）北京中間会合　概要報告（1/3）

全体概要

- ISC（International Science Council）は、各国を代表するナショナルアカデミーや国際学術連合で構成される、自然科学・社会科学を横断する世界最大級の国際学術ネットワーク。
- ISCは４年に１度総会を開催しており、本会合は総会と総会の間に開催される中間会合（Midterm Meeting）としていう位置付け。本会合では、各種会合に加え、Peter Gluckman（ピーター・グルックマン）前会長からRobbert Dijkgraaf（ロバート・ダイクラーフ）新会長への引継ぎが行われた。
- 本会合には各国・地域のアカデミー、国際学術連合等の代表者約300名が参加。
  日本学術会議からは加藤和人会長が参加し、ジェンダー平等や低・中所得国における基礎研究支援等について積極的に発言するとともに、各国アカデミー等との意見交換を通じて連携強化を図った。

開催概要

開催日時	2026年10月22日（木）、23日（金）
場所	China National Convention Center（中国北京市）

22日（木）9:00～18:00

（午前中）
- カテゴリー別会合ほか

（午後）全体会合
- 開会挨拶
- ISC事務局からの報告
- カテゴリー別会合の結果報告
- グルックマン会長総括
- ラップアップ

23日（金）　9:00～12:30

全体会合
- ダイクラーフ新会長所信表明
- 会員との対話
- グルックマン会長からダイクラーフ新会長への交代式

（参考）会議サイト
https://council.science/mmm-beijing-membership/





ISC（国際学術会議）北京中間会合　概要報告（2/3）

10月22日（木）9:00～10:45　カテゴリー２会員（ナショナル・アカデミー等）会合

- カテゴリー２会員が、ISCへの期待やISC会員としての利点、今後必要な支援・連携の在り方等を議論。
- ジェンダー平等をめぐる議論では、加藤会長から、日本学術会議において引き続き取組を推進すること、ISCの取組を支援することを表明。



会合の様子



発言する加藤会長



集合写真

10月23日（金）9:00～12:00　ダイクラーフ新会長の所信表明演説と会員との対話

- ダイクラーフ新会長は所信表明演説で、地球規模課題の解決には国際的な科学協力が不可欠であり、ISCは科学外交の推進や政策への科学的助言を通じて重要な役割を果たすと指摘。
- 会員との対話セッションでは、加藤会長から、ISCの今後の優先課題や組織の強みに関して質問するとともに、低・中所得国における基礎研究支援の重要性について発言。
  ダイクラーフ会長は、国境や分野を越えた科学協力の推進、学問の自由の擁護、地球規模課題への科学的貢献に重点を置くべきであり、科学と政策、科学と社会を結ぶ国際的なプラットフォームとしての役割を一層強化すべきと回答。



会合の様子



質問する加藤会長



回答するダイクラーフ会長

ISC（国際学術会議）北京中間会合　概要報告（3/3）

各国アカデミートップとの交流



ISCのダイクラーフ新会長と



ケニア科学アカデミーのミチエカ会長および
カナダ王立科学アカデミーのベイリス会長と



フィリピン科学アカデミーのプロメンティラ会長および
ISCの朱副会長（メンバーシップ担当）と



ISCのジャミ理事および仏科学アカデミーの
アイゼンスタイン氏（世界的理論化学者）と



インド国立科学アカデミーのマンデ会長および役員と



World Academy of Sciences（TWAS)のババロラ
副会長（ISC理事）と